経営層・管理者・組織開発担当向け 実装プレイブック

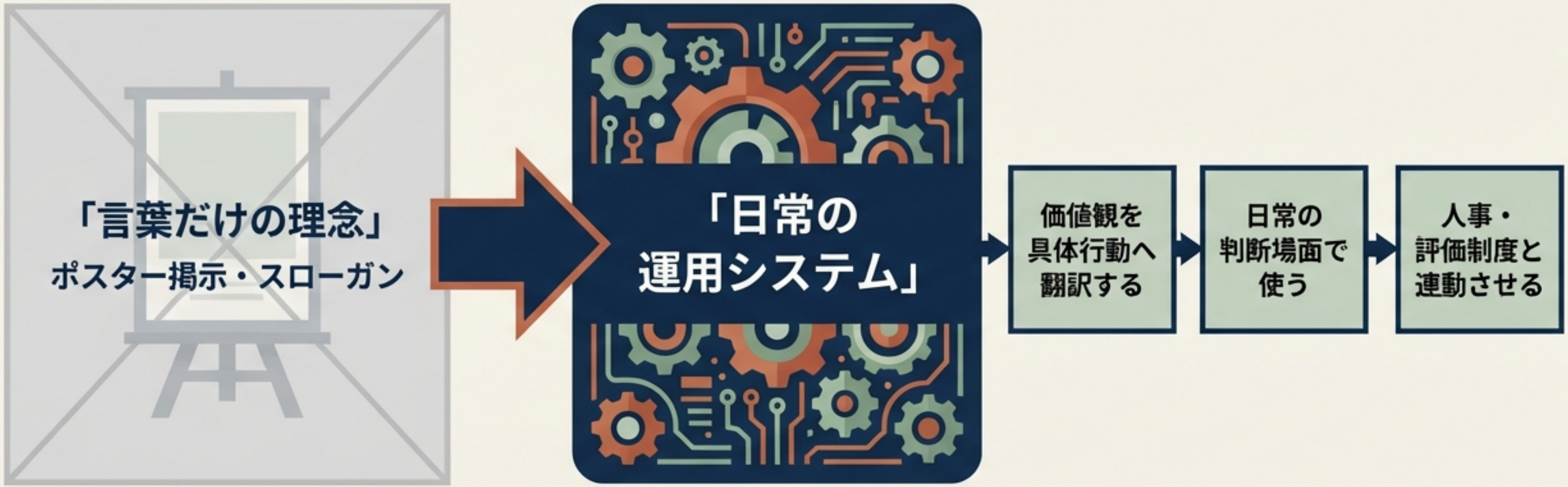
理念を「現場の行動力」に変える

組織文化（クレド）浸透のための実践的オペレーション構築



NotebookLM

結論：クレド浸透は「言葉」ではなく「日常運用」で決まる

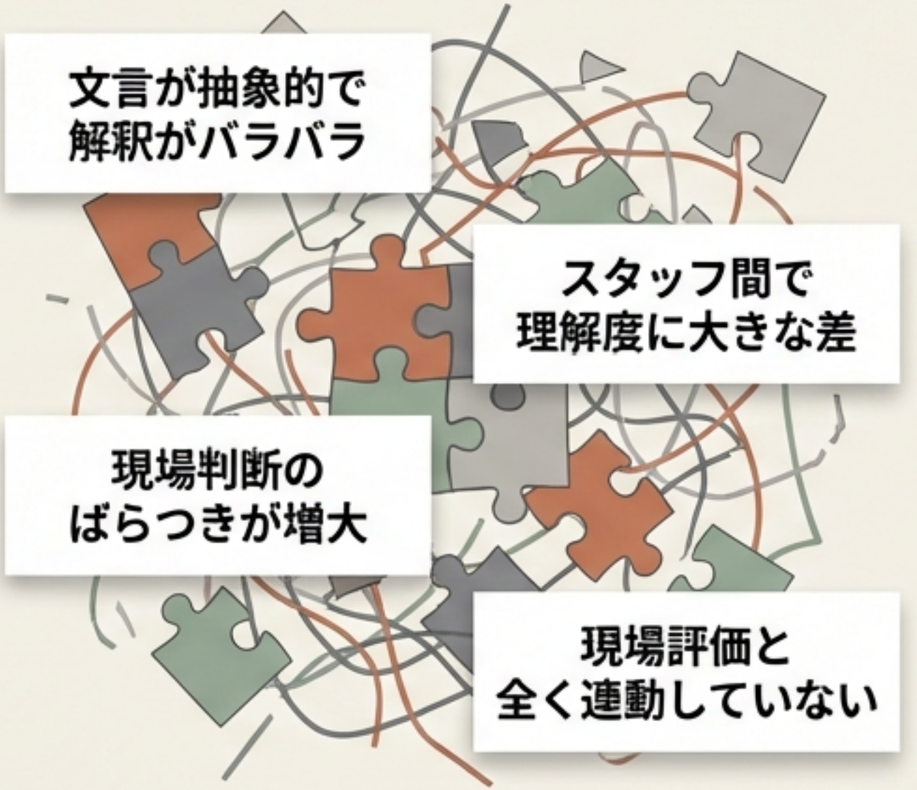


NotebookLM

クレドの錯覚：壁に飾られた理念と現場のギャップ



理想化された企業理念



実務と分離した現状

理念と実務が分離すると、価値観は単なるスローガンに終わります。

NotebookLM

理念が形骸化する「3つの日常場面」



朝礼

単なる「読み上げ」のみで終わり、一日の行動に接続されない。



会議・ケース検討

実際のケース判断時に、クレド（価値観）が参照・適用されない。

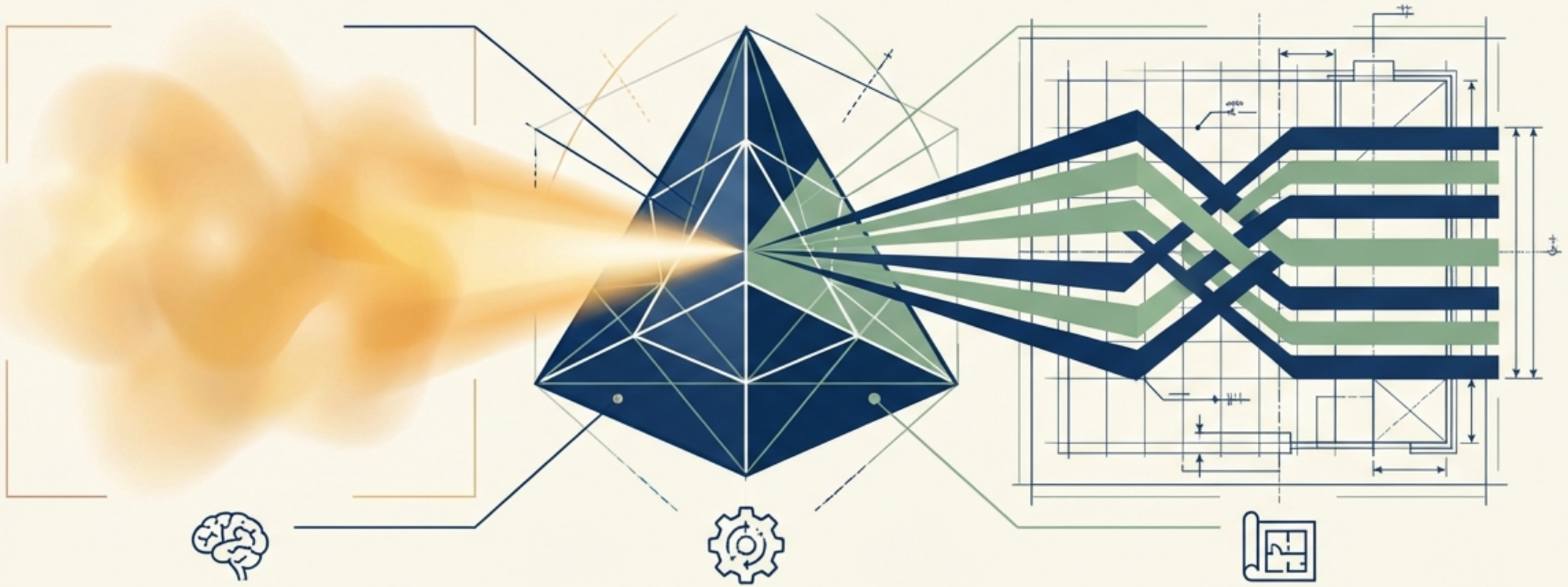


評価面談

現場の行動評価と法人の理念が完全に分離している。

NotebookLM

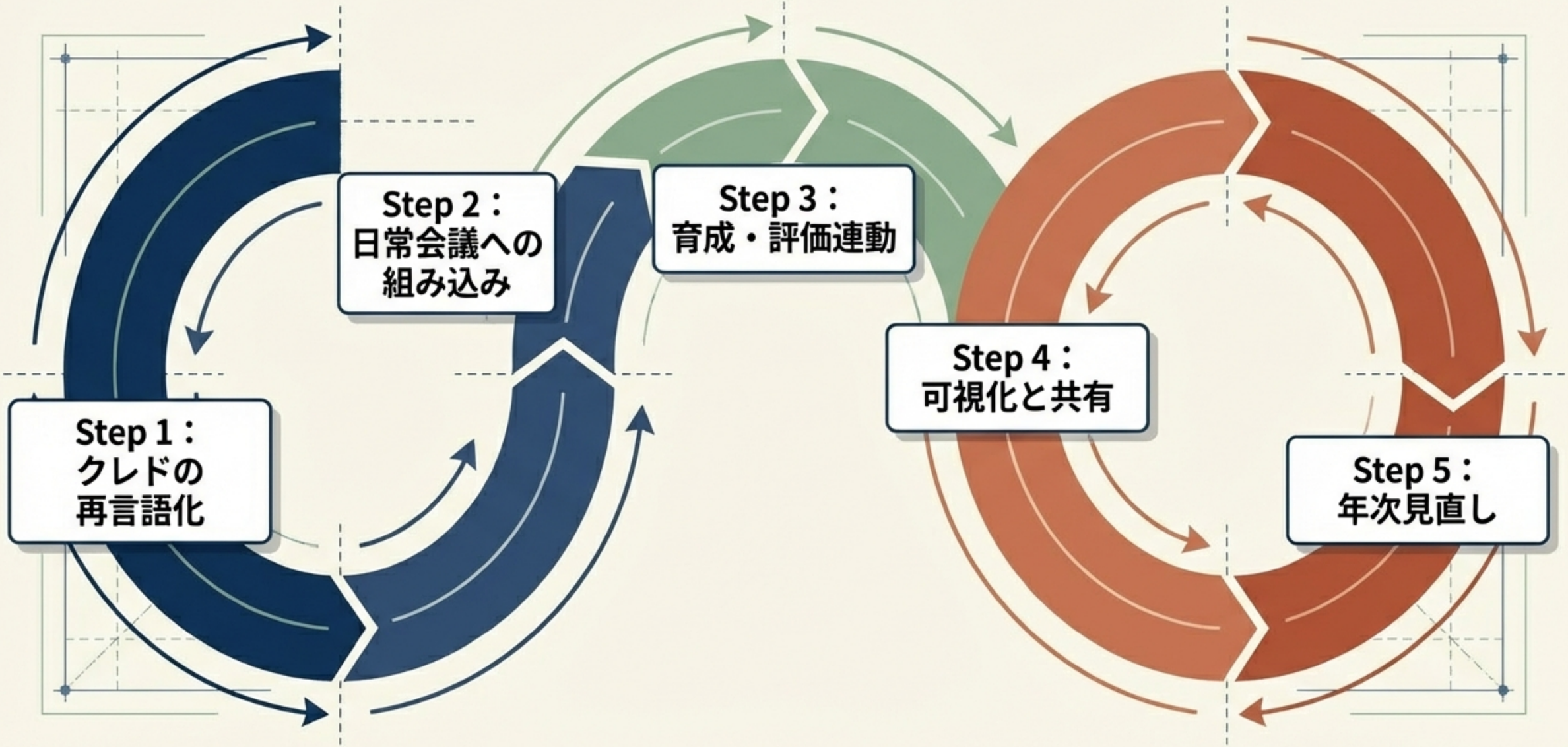
パラダイムシフト：理念を「行動判断の基準」へ



- クレドは掲示するだけでは浸透しません。
- 現場で「行動判断の基準」として使われて、初めて意味を持ちます。
- 評価、会議、育成のシステムに直接配線（ワイヤリング）する必要があります。

NotebookLM

クレド定着のための「5ステップ実装フロー」



NotebookLM

Step 1: 抽象的な価値観を「現場の行動例」へ翻訳する

[Input]
「寄り添う」「尊重する」などの抽象語



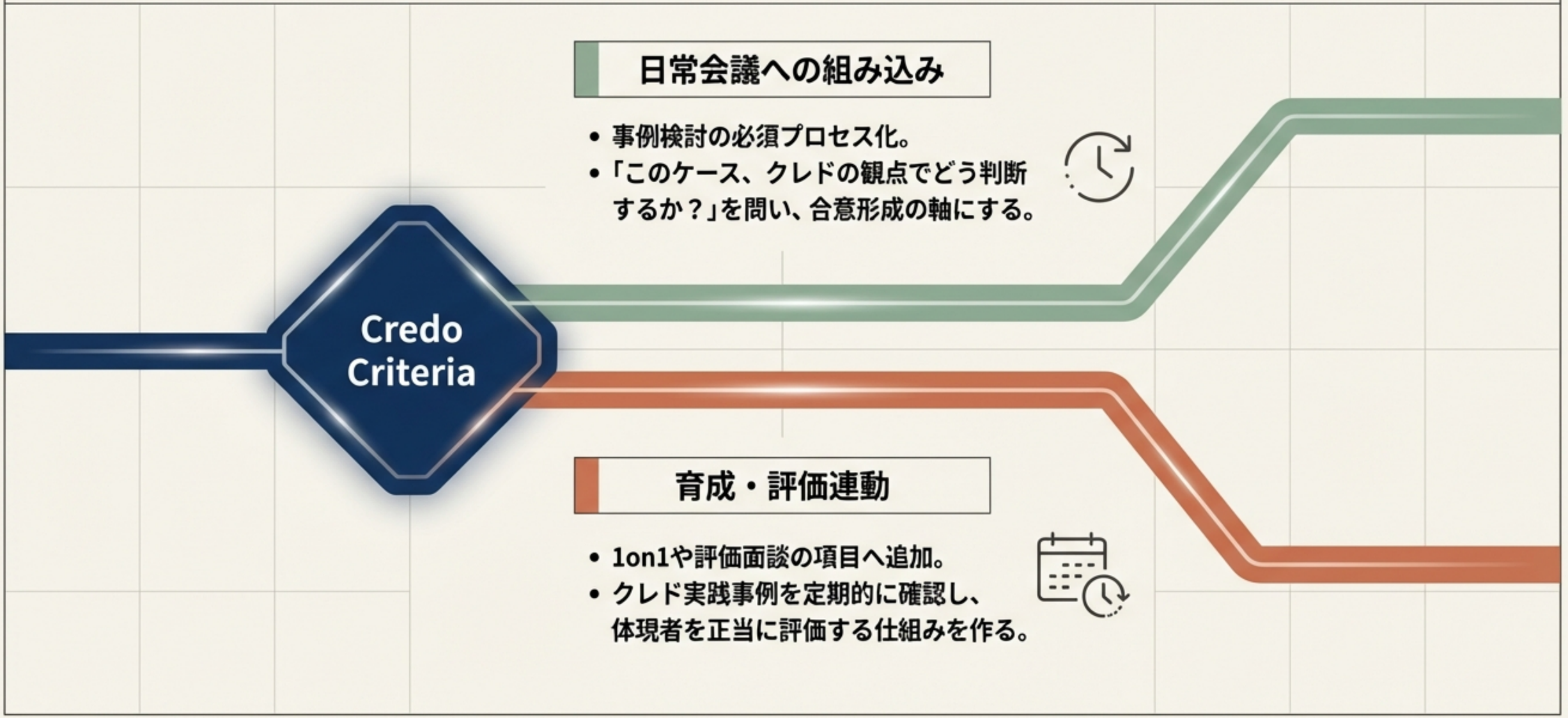
[Process]
現場行動への翻訳

[Output/Example Actions]
- ○○の状況で、××という言葉がけをする
- 判断に迷った際、まずは本人の意向を傾聴する

現場が迷わず実行できる解像度まで落とし込む。

NotebookLM

Step 2 & 3：「日々の判断」と「人事評価」への完全配線



NotebookLM

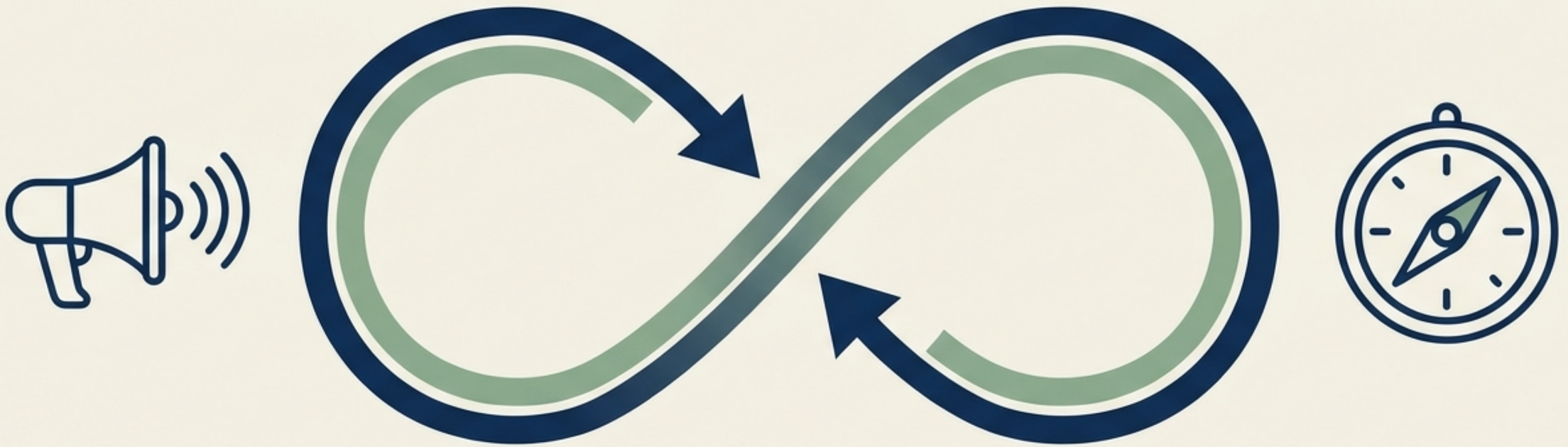
Step 4 & 5: 実践の共有と、ズレを補正する年次アップデート

可視化と共有

- 良い実践事例を組織内で横展開。
- 属人的な成功を「再現可能な行動」へ転換する仕組みづくり（月次レポート等）。

年次見直し

- クレドと現場実態の「ズレ」を定期健診。
- 言葉と運用ルールを現場の最新状況に合わせて更新し、形骸化を防ぐ。

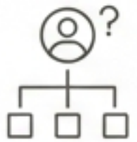


NotebookLM

ケーススタディ：AU事業所の変革軌跡

導入前の課題

理念は存在するが、現場判断に全く反映されない状態。



実施内容

- クレド行動例の作成。
- 会議でのクレド確認を「定例化」。
- 評価面談にクレド実践項目を「追加」。







導入後の変化

- 現場の判断の一貫性が劇的に向上。
- 新入職員の理念理解スピードが大幅改善。





【成功要因】理念を単なる言葉に留めず、「評価」と「会議」のシステムへ直接接続したこと。

NotebookLM

陥りやすい3つの失敗パターンと回避策



[失敗]
文言だけ整備する

[結果]
実務に落ちない



[回避策]
必ず「具体的な行動例」まで
セットで作成する。



[失敗]
評価と連動させない

[結果]
現場での優先度が下がる



[回避策]
評価項目へ直接組み込み、
実践を処遇に反映させる。



[失敗]
成功を共有しない

[結果]
組織浸透が遅れる



[回避策]
月次ミーティング等で実践
事例を必ず共有する。

NotebookLM

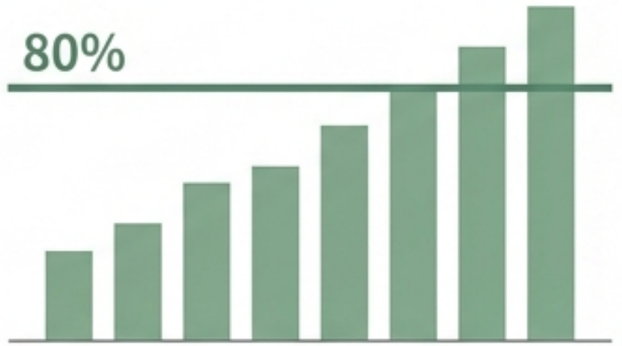
文化を計測する：運用の見える化とKPI

理解度



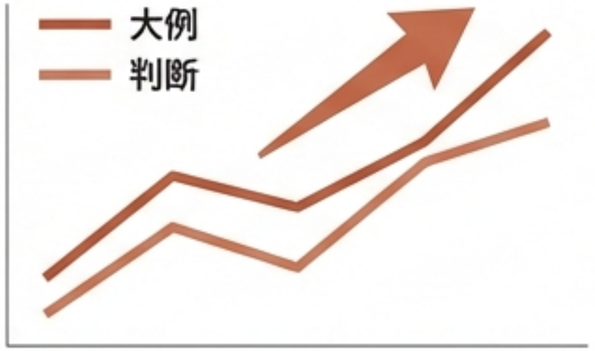
[指標]: クレド理解度アンケート
[目標値]: 85%以上
[頻度]: 半期

実践報告率



[指標]: クレド実践報告の提出割合
[目標値]: 80%以上
[頻度]: 月次

判断整合率



[指標]: ケース判断の整合割合
[目標値]: 前期比改善
[頻度]: 四半期

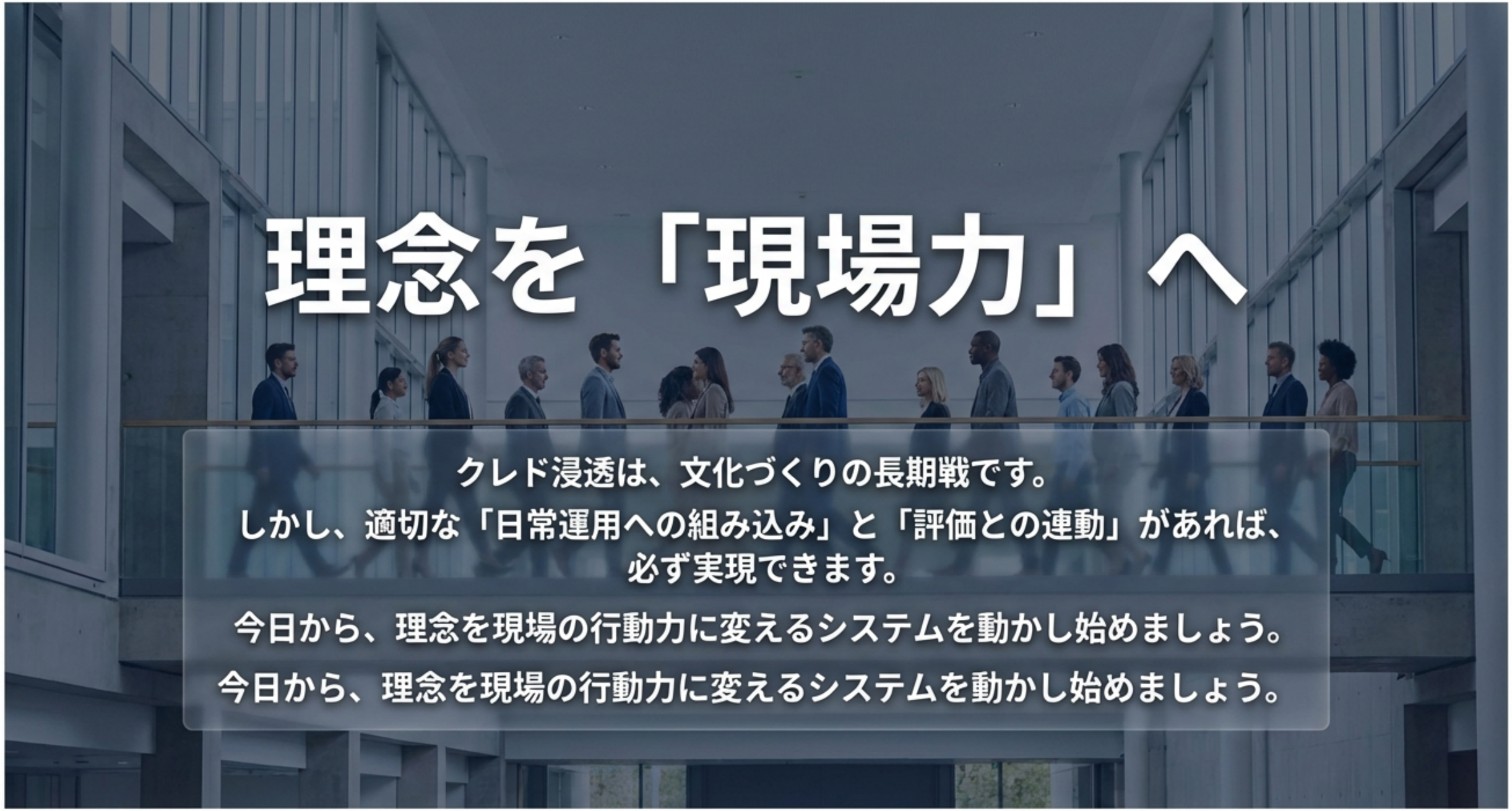
NotebookLM

監査・品質チェックリスト（自組織の現状確認）

- ☐ クレドに基づく具体的な「行動例」が整備されているか？
- ☐ 日常の会議で、判断軸として定期的に参照されているか？
- ☐ 人事・評価制度の実践項目として反映されているか？
- ☐ 現場の良い実践事例を共有・蓄積する仕組みがあるか？
- ☐ 年次で理念と現場実態のズレを見直しているか？

法令・ガイドライン参照：組織運営・人材育成関連資料 / 障害者総合支援法 / 指定障害福祉サービス運営基準

NotebookLM



今日から、理念を現場の行動力に変えるシステムを動かし始めましょう。

NotebookLM